

小学校 音楽科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 楽曲を聴いて感じ取ったことを【共通事項】を手掛かりとして整理し、楽曲の特徴や箏や尺八の演奏のよさを理解することができる。

思考力、判断力の育成

- 学年 第6学年
- 題材名 日本の音楽を味わおう
- 本時の目標 尺八と箏の音色や演奏の特徴を感じ取りながら《春の海》を味わい、対話を通じて感じ方を広げる。
- 学習の流れ（2時間目／全7時間）
全7時間のうち、第一次で《春の海》の鑑賞、第二次で箏の演奏、第三次で箏曲《さくら変奏曲》の鑑賞というように、表現と鑑賞の関連を図りながら指導する。また前時において、三味線・尺八・箏・篠笛によるそれぞれの《さくら》の演奏を比較聴取し、楽器の音色の特徴を小集団で語り合い深めている。

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 春の海クイズをする。	・瀬戸内海の情景について宮城道雄が箏と尺八で作曲したことや、三部の構成できていることを教科書から見付けさせる。また目の見えない道雄だからこそ、情景を心の目で感じて音で表現したことに気付かせる。	
2 学習課題を知る。	春の海を聴いて、宮城道雄が表現したかった瀬戸内海の情景をさぐろう。 ・いろいろな瀬戸内海の写真を見せ、想像させる。	
3 《春の海》の演奏を聴きながら、演奏の特徴や浮かんだ場面の様子を付箋紙に書く。	・聴く視点を4つ示し、それを根拠に、瀬戸内海の情景を想像させる。 (視点：箏と尺八の音色の違い、速度の変化、強弱の変化、旋律の繰り返し) ・演奏の特徴を根拠に浮かんだ場面の様子を書くようにさせる。	
4 グループで交流し、全体で話し合う。	・付箋紙を、始め・中・終わりの3つに分けて、時間の流れに沿って貼りながら自分の思いを語らせる。 ・1グループを代表で発表させ、質問や付け加えをしながら話し合い、再度聴くための視点をもたせる。 ・誰のどんな意見を参考に聴いたかを含めて記述させる。	
5 再度演奏を聴き、確認できたことや新たに感じ取ったこと、友達の感じ方から学んだことを鑑賞ノートに記入する。		
6 宮城道雄の随筆の一節を聞く。	・宮城道雄の表現したかったものや工夫を知らせる。	

・箏と尺八の掛け合いや、速度や強弱の変化や旋律の繰り返しなどから生まれる楽曲のよさを味わっている。〔鑑賞の能力〕(ノート)

言語活動の充実

指導のポイント

【共通事項】にかかわる聴く視点を提示する

- 児童には、自分の考えをもたせた上で、感じ取ったことを交流させることが大切です。そのためにも、聴く視点をあらかじめ提示しておきます。また、感じ取ったことを付箋紙に書かせ、それらを基に交流させるのも有効な方法の一つです。

【留意点】

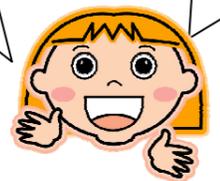
楽曲に応じて、感じ取らせたい【共通事項】を明確にして示しましょう。

(例)

- ここに注目！！
- ① 箏と尺八の音色と役割の違い
 - ② 速度の変化
 - ③ 強弱の変化
 - ④ 旋律のくり返し

「はじめの部分では、箏で演奏されるふしが静かな波を表しています。尺八で演奏されるふしがかもめの声を表現していると思います。」

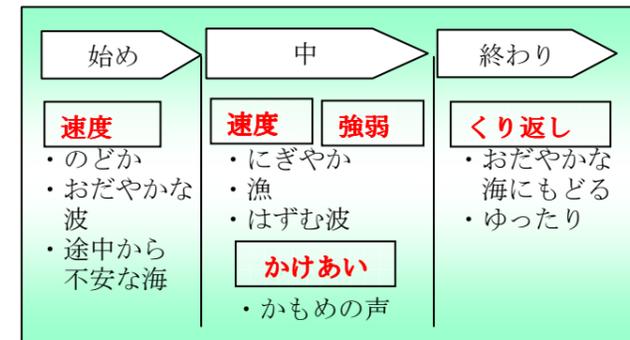
「海の様子が動きのあるように感じたのは、中のところで、速度が速くなったからです。」



感じ取ったことを整理し、共有するための板書を工夫する

- 各自が感じ取ったこと(付箋紙に書いたもの)を交流し、共有されることが大切です。

交流することで、自分の気付かなかった味わいに気付くきっかけになったり、友達が自分と同じ感じ方をしていたことが自信につながったりします。



☆時間の流れを意識することは、楽曲の構成に気付くことにもつながります。

黒板には、四つの聴く視点と、三つの場面(始め・中・終わり)をあらかじめカードにしたものを貼っておく。

新学習指導要領では

楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを相互に伝え合う活動を重視

- 今回の改訂で、表現と鑑賞の活動の支えとなる指導内容【共通事項】が新設されました。このことは、【共通事項】を手掛かりとして、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさなどを感じ取り、思考・判断する力を育成することを目指しています。
- 感じ取ったことを言葉で表すなどの活動を位置付けることによって、楽曲や演奏の楽しさに気付かせたり、楽曲の特徴や演奏のよさに気付かせたり理解したりすることが大切です。児童が楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを伝え合うことができるような活動を取り入れることによって、友達の感じ方に気付いたり、自分の感じ方を広げたりすることにつながります。